

中国青海省牧畜業の現状における日本型総合 農業協同組合の役割と将来展望

巴 托 那 生

青海省牧畜地帯は様々な問題に直面している。自然環境が厳しい、インフラ設備がまだ不足しているし、交通運送コストが高いなどの原因で外来投資の収益性に対して、プラスのことはない。青海省の地元企業は規模が小さい、リードする力が弱い、影響範囲も狭い、技術も低いという四つの弱点がある。2005年1月26日、国务院第79次常務会議を通じて、75億元（約1100億円）の《青海三江源自然保護区生態保護と建設総体計画》プロジェクトを実施し、22種項目の中、50億元は牧畜業建設、退耕還林還草、森林防火、動物保護と草地保護、黒土灘（地名：ヒトウタン）管理、草原鼠害を防止、小鎮城建設、牧民技能養成と定住点の建設などの項目があり、投資時間は2005年から2010年まで全部プロジェクトを完成させる¹⁾。しかし、環境保護に若干効果が出たが、生活が良くなったはずの移民新村では、世帯主の半分が出稼ぎに出かけなければならないとなっている。それに、生態移民の少数の例外を除くと生活は向上しないどころか悪くなる一方である。また、仕事がないということ、提供された住宅がとんでもないボロ屋だったことなど、環境保全プロジェクト実施の現場である移民村は、現在多くの、かつ新たな難題を抱えている。そして、このプロジェクトはただ一回の投資、若干の項目で解決できる問題ではない。逆に、青海省牧畜地帯の環境保全は長期的、継続的投資、建設、保護することが必要である。

そこで、農牧地域の環境や住民の生活を改善するために農牧民專業合作社建設に力を入れている。2003年から、青海財務省6年連続特別支援資金を設置し、農牧合作社の発展を支援し続けている。2010年まで支援資金は2000万元（約3億円）、200前後各類專業合作に直接支援したという²⁾。專業合作社は2008年は516社、2009年は374社増加³⁾、2010年各類合作社は1100社まで急増している⁴⁾。その中に牧畜業は48.9%を示している。これまではなかった、合作社発展に公的資金を利用し、零細農家を再編・強化している。しかし、現地の牧民の話を聞くと、合作社がうまく運営しているわけではない、ただ免税や医療保険などの目的で設立されたところが多いという。

こうした青海省牧畜業地域の現状において、一番大事なのは合作社として有する特性（強み）をはっきりさせる必要がある。いわゆる教育事業。例えば、「改めて合作社が発揮すべき役割とは何か」「行政や一般企業にはない合作社の特性とは何か」「こうした特性を強みに変えていくにはどうしたらよいのか」を問う必要がある。

こうした難局を打開するためには、いま一度合作社が歩んできた歴史もふり返りながら、農民合作社の原点や大切にすべきものは何かについて次のような視点で考えてみた。

第一は、「くらし」の視点から。

第二は、「学び」と「つながり」の視点から。

第三は、「地域」と「総合力」の視点から。

経済、資源や環境などの課題に真正面から向き合うことが求められ、このことが現代的な意味での総合力発揮につながると考えられる。

ここで、日本の総合農協の仕組みをそのまま取り入れるのではなく、この「総合力」の意味を問い直し、それを強みとして発揮していくための条件を明らかにし、その仕組みを整えなければならない。

本論文は、青海省牧畜業の現状を明らかにしたうえ、中国農民專業合作社と日本の総合農協をてらしながら、青海省牧畜業の発展につながる合作社の在り方を検討した。論文全体の構造は、はじめに（問題意識）、第1章「研究方法及び本論文の構成」、第2章「中国青海省牧畜業の現段階をどう把握するのか」、第3章「日本型総合農業協同組合」、第4章「日中農業協同組織の差異」、そして、おわりに（今後の課題）の6部分、4章構成となっている。

注

- 1) 崔岁显 崔瑞雪「三江源生态移民高成本的分析」『生态环境』
- 2) 2010年2月 青海省农牧民专业合作社 在发展中壮大（中国語）
(<http://www.caein.com/index.asp?xAction=xReadNews&NewsID=51879>)
- 3) 2010年10月 青海省农经处关于开展农民专业合作社示范建设行动的意见（中国語）
(<http://www.ccfc.zju.edu.cn/a/zhengcefagui/2010/0705/1956.html>)
- 4) 2010年10月 我省农牧民专业合作社首批省级示范正式挂牌（中国語）
(http://www.qhagri.gov.cn/Html/2010_10_29/2_1916_2010_10_29_81899.html)